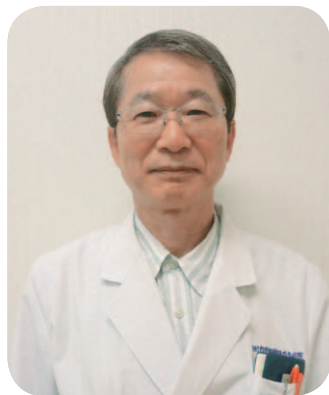




医療
ホット
ライン

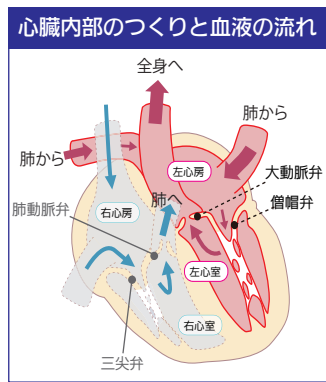
内科

誰もが危険?! 年齢とともに増加する「心臓弁膜症」とは



西村内科脳神経外科病院

園田 隆次先生



心臓疾患といえは狭心症や心筋梗塞が有名ですが、最近高齢化に伴い増えているのが「心臓弁膜症」です。年をとれば誰にでも起こり得る病気です。

——そもそも、弁膜症のために機能しているのとほどのような病気でしようか？

園田 心臓は全身に血液を送るポンプのような役割をしています。血液は全身から心臓、肺、そしてまた心臓へ帰り、全身へと循環しています。この流れを二方向に維持す

間にある僧帽弁と大動脈弁に障害がでやすくなります。

——障害とは具体的にどのようなものですか。

園田 弁の開きが悪くなる「狭窄(きょうさく)」と、弁の閉じ方が不完全で血液が逆流する「閉鎖不全」があります。僧帽弁の場合、左心房が肥大

るために機能しているのが、心臓内の4つの弁です(左図参照)。この弁に障害が起き、本来の機能を果たせなくなった状態が「弁膜症」です。とくに、心臓は全身に血液を送る側(図の濃い色の部分)が強い力を必要とするので、左心房から左心室の

間にある僧帽弁と大動脈弁に障害がでやすくなります。突然死にも繋がってしまふのですね。弁膜症が起る原因は分かっているのでしょうか？

園田 原因としては、かつては、リウマチ熱の後遺症としてなることが多かったのですが、現在は抗生物質の普及により減少しました。一方、高齢化に伴い、弁に動脈硬化と同じような変化が起ります。心筋梗塞が原因になることもあります。

——予防法や治療法は？

園田 弁膜症がある方は心臓に雑音があり、健康診断の聴診で発見される方が多いです。超音波検査ではより精密に診断でき、痛みもなく簡単なので、60歳以上の方は定期的に受けられることをお勧めします。

また、弁膜症は「弁置換術」という外科手術で治療可能。悪くなった弁を生体弁もしくは機械弁に取り換えます。近年は医療技術が発達し、開胸せず心臓を止める必要もない「TAVI(経カテーテル大動脈弁治療)」が可能になり、患者さんの負担も軽くなりました。

高齢になると「何かあったら怖いから…」と病院に行きたくないという方が増えますが、早期発見で治せる病気がたくさんあります。まずは勇氣を出してご来院ください。